

## 【8】市制100周年…名古屋の新世紀

# 1 市ができて100年

昭和64年(平成元年)は、わが国に「市」が出来て100年目に当たりました。明治22年4月、市制が敷かれ、その年に市になったのは39都市でした。そのうち残った38都市が一斉に100周年を迎えることになったのです。

それらの都市では100周年の記念事業が計画されており、そのうちの多くの都市が、その中心行事として博覧会を選択することになりました。大阪、横浜、福岡、広島、堺、鹿図1 全国の市制100周年記念で開催された主な博覧会

都	市	博覧会名 期間		
鹿児島		サザンピア21	3/10-5/14	
福	岡	アジア太平洋博 3/17-9		
静	岡	駿府博	3/18-5/21	
姫	路	姫路シロトピア博	3/18-6/4	
堺		ダッハランド89大坂	3/19-5/21	
横	浜	横浜博覧会	3/25-10/5	
広	島	89海と島の博覧会	7/8-10/29	
名古屋		世界デザイン博覧会	7/15-11/26	
山	形	山形100フェスティバル	8/3-8/20	
甲	府	甲府博覧会	9/15-11/12	
大	阪	国際花と緑の博覧会	24/1-9/30	

\*乃村工藝社のホームページを参考にした

児島、山形など、九州から東北地方まで、一斉に博覧会が開かれることになったのです (大阪は国際博にするため、翌年に変更)。そして名古屋も、100周年記念事業の中心は博覧会「世界デザイン博覧会」(以降、デザイン博)でした(図1)。

今回は、市制100周年記念事業として、デザイン博が行われることになった経緯を追いつつ、その意味を考えてみたいと思います。

## 2 名古屋・新世紀

## (1)名古屋の市制100周年

昭和56年。名古屋地方は、1988年(S63)のオリンピック誘致に失敗しました。その傷は大きく、関連自治体は、代替のイベント開催を模索し始めました。岐阜県では、「中部未来博」(S63)、三重県では「まつり博」(S69-H6)に、そして愛知県は万国博の誘致へと走りました。ところが名古屋市は慎重でした。革新市政であったこと、オリンピックの一過性が問われていたこと、などからすぐ博覧会につなぐことが出来なかったのでしょう。

市制100周年記念事業の検討は57年から始まりましたが、まず市民の意見を聞くところからスタートしています。そして学識者等の委員会で検討され、59年夏、基本構想が出されました。そのテーマは、

テーマ: いま未来の扉を一名古屋新世紀

サブ:みつけよう!名古屋

ひろげよう!ふれあいの輪

はぐくもう!明日への夢と勇気

です。そして事業の大綱が示され、全体を「名 古屋・新世紀まつり」と呼ぶこととし、その

方向性を示しました。注目する博覧会については、先人の遺産として「名古屋城・堀川・名古屋港に新しい息吹を」としたこと。メインイベントとして、文化、産業などを包含した「壮大な催し(例えば、特色ある博覧会)」を開催する、と遠慮がちに記したことです。そしてこれらの構想は、市民討議を経て61年冬、具体的な事業の候補として公表されました(図2)。ところが博覧会の内容は未定のままで、さらに広範なメンバーの入った新しい組織での検討に委ねられたのです。

図2 名古屋の市制100周年記念事業

サブテーマ	核となる事業	事 業 名	説明
	名古屋城に新しい息吹を	<b>→</b>	本丸御殿を含め引続き検討
	堀川に新しい息吹を	堀川・	堀川再生をめざし複合的な整備
みつけよう		昭和の大改修	(木曽川導水の促進)
名古屋	名古屋港に新しい息吹を	<b>→</b>	水族館構想を含め引続き検討
	まちや生活の歴史	記念出版等	・100周年記念誌、映画
			・新 '名古屋市史' の編纂等
カスげトン	都心の新名所	若宮大通の整備	緑と水の憩いと交流の空間として整備
ひろげよう ふれあいの輪	多目的巨大イベント空間	白鳥メモリアル	産業・文化に活用できるイベントと
23.10 <i>0</i> 30.07#m		パークの整備	憩いの空間として整備
14 15 1 4 5	メインイベント・施設	博覧会の開催	国際的に発信力のある博覧会を
はぐくもう 明日への			(協議会 'なごや・100' で検討)
夢と勇気	多様な主体の取組	「夢おこしなごや	市民、団体、企業等でイベントや
ダムカメ		100」の展開	市民運動等として展開
	_	展望自然動物館	展望台併設の自然動物館を
_		の建設	東山動植物園内に建設

<sup>\*「</sup>市制百周年記念事業活動記録―名古屋市―」の内容を筆者が整理した

## (2)記念事業の意味したもの

「名古屋・新世紀」とは、100年という節目 の年に、過去100年を振り返り、次の100年 に思いをはせるという意味でしょう。

街づくりを振り返ると、名古屋の明治以降は、名古屋駅から栄、千種、東山と、西から東へ発展しました。一方で、江戸時代の名古屋城から熱田への南北方向は薄れていきました。しかし都市名古屋を考えるとき南北軸は重要です。名古屋新世紀は、まず、そこに光を当てたいというのが、多くの意見だったのです。

いまひとつ、近代名古屋の100年を考える

時、気になることがありました。モノづくり 分野です。名古屋は工業都市として大きく 成長しました。検討当時は世界の工業生産の 1%を産出していたのです。しかし今後100 年を展望すると、当地方には気がかりな問題 がありました。ソフト面の弱さです。時代は ソフトの時代に移りつつあったのです。新世 紀を考えるとモノづくりのソフトへの対応が 不可欠でした。そこで登場したキーワードが 「デザイン」です。

しかし、いきなりデザインのイベントをしようにも見通しが立ちません。そこで、デザインに関する世界的なイベントの誘致を考えたのです。その結果、60年のワシントンで、

64年の世界デザイン会議(工業デザイン部門) の誘致に成功しました。そして61年春、100 周年事業の中心となるイベントとして「世界デザイン博覧会(仮称)」が公表されることになりました。

### (3)世界デザイン博覧会

博覧会を開くとなるとまず問題になるのが会場です。ところが当時の名古屋には、適当な場所に50~100%という大規模な用地は確保できませんでした。そこで考えられたのが会場の分散です。当時、熱田に近い堀川沿いの白鳥には、大きな貯木場が廃止になろうとしていました。白鳥は古代からの歴史ある地域で、面積も30%位期待できました。そこをメイン会場に、堀川に沿って、北は名古屋城、南は名古屋港にサブ会場を作ることとしたのです。そうすれば立派な博覧会が開けます。それは名古屋の街の南北軸そのものであり、古代の白鳥、近世の名古屋城、近代の名古屋港、と名古屋の歴史をつなぐ道とも考えられました。

そして61年春、公表された博覧会構想は、

名称:世界デザイン博覧会(仮称)

会期:昭和64年7月~11月(120日程度)

会場:メイン会場 白鳥 サブ会場 名古屋城、

名古屋港(ガーデンふ頭)

想定入場者数:600万人

でした。そして、①テーマを広くとらえ、② 幅広い市民参加を考える。③「街が博覧会」にして、④今後の街づくりに寄与する等の留意 点がつけられていました。ようやく博覧会が動き出すことになったのです。

## 3 紀行 名古屋城と名古屋港

## … デザイン博のサブ会場 …

それでは、デザイン博のサブ会場だった名

古屋城と名古屋港(ガーデンふ頭)を、博覧会を思い出しながら歩いてみましょう。

#### 〈名古屋城〉

地下鉄市役所駅の北の改札を通り7番出口を出ます。そのまま進み、左に曲がって名古屋城に入ると、その先に東門があります。入ってすぐ右が二之丸東庭園で、デザイン博では銀行のパビリオンがつくられました。名古屋城の中は、国の特別史跡のため、施設を作る場所が限られ、しかも仮設でなければなりません。その西の二之丸庭園の横に二之丸広場がありますが、ここは名古屋市のパビリオンでした。その広場を斜めに横断して本丸の東門を入ります。桝形を抜けると左は本丸御殿で、最近一部が公開されました。デザイン博では、右手の空間には中部圏のパビリオンがガウディの塔を立てていました。

天守閣を右に、不明門を抜けて堀を渡り、 左に曲がると御深井丸です。この中央は広場 になっていて鉄道会社のパビリオンがありま した。今は本丸御殿建設の工作場になってい



名古屋城二之丸東庭園



二之丸広場。天守と東南櫓が見える



あったが明治になって埋められて、広場が出来たます。左に道なりに進むと正門前の広場に出ます。そこから東側の細長い広場は、名古屋城の貴重な広いイベント空間で、デザイン博でもさまざまな店舗等が並びました。

正門を出て左に、堀に沿って東に進みます。 突き当たって、右手の二之丸の門を入ると県 体育館です。この付近の広い空間は、残念な がら県の管理地です。東に進むと入ってきた 東門に出ます。名古屋城内は仮設しか許され ないためデザイン博の記念物はない…と思い ながら地下鉄に戻ると、あっと気が付きまし た。出入口です。ここの出入口は高麗門型に なっていますが、これはデザイン博に合わせ て交通局が知恵を絞ったものでした。



地下鉄市役所駅の高麗門を模した出入口

#### 〈名古屋港〉

さて、地下鉄の名古屋港駅に向かいます。 港には今は3番出口が便利ですが、これはデザイン博の時に構想されたのですが間に合わず、後で完成したものです。従って当時を思い出しつつ1番出口を出ます。南側一帯がガーデンふ頭で、ほぼ全域がデザイン博会場



名古屋港ガーデンふ頭の中央の通。 手前に博覧会のゲートがあった



ふ頭東の駐車場。 この辺りにパビリオンが並んでいた

でした。左側に迂回して南に向かう歩道橋に上がります。少し進んだ左側。駐車場になっている所は、博覧会の時は銀行や鉄道系の会社のパビリオンが設けられたところです。歩道橋の先の左。広い広場になっている所は、スーパーの大きな「ぐじら」の形をしたパビリオンが目を引きました。まっすぐ海に向うと右側はポートビルです。エレベーターで展望台に上るとガーデンふ頭一帯が見渡せます。

下に戻ってウエストサイドと呼ばれた西側



ポートビルからイーストサイド。 中央の広場に大きなクジラ型のパビリオンがあった



ポートビルからのウエストサイド。 水族館が出来てすっかり変わった

に向かいます。博覧会の時にできた、水玉が飛んだような形の橋を渡ります。西側はその後水族館やシャチのプールが出来て大きく変わりました。博覧会時はいくつかの展示場とレストラン等です。海際のビールがおいしかったことを思い出します。右に曲がれば地下鉄駅への道です。このように見てくると、名古屋港会場も、その後の水族館建設に合わせて再整備されたため、具体的なデザイン博の面影は消えてしまっていました。

## 4 金山総合駅

金山を総合駅化して、名古屋のサブセンター(副都心)にという構想は、戦災復興事業で提案されました。ところが事業は、40年

経ってもあまり進んでいませんでした。難しさは、国鉄、名鉄、地下鉄という3つの鉄道事業者の利害にかかかるのです。当時は分割民営化の問題を抱え、交通局はは駅移設の問題を抱え、交通局は建設済みと歩調が揃わず、見通しが立っていませんでした。

しかし名古屋の南北 軸の再生を考えたとき、 この金山総合駅は極めて重要な問題です。交渉は水面下で進んでいました。そこに新しい状況が生まれました。一つはデザイン博会場へのアクセス。いき場ですのです。いておりでも放っておいてよいである。

問題ではなくなったのです。

そして62年正月。ついに名古屋市と各鉄道会社が合意にこぎつけました。実に40年、中断してからでも20年の歳月の後、デザイン博を目途に完成することになりました(図3)。連絡橋を渡った南口は博覧会のバスターミナルに。デザイン博開催がきっかけになって、名古屋の街づくりの懸案が大きく動き出すことになったのです。

#### 〈主な参考文献〉

- ①名古屋市企画課「市制百周年事業活動記録」
  (1991、名古屋市)
- ②電通編「世界デザイン博覧会公式記録」

(1990、劇世界デザイン博覧会協会)

③都市問題研究42-3「特集 イベントと都市の活性化」 (1990、都市問題研究会)

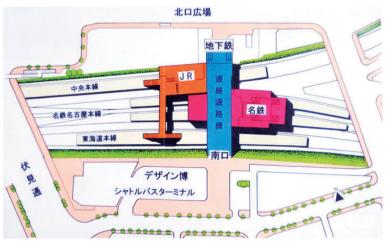


図3 動き出した「金山総合駅」(平成元年)。 デザイン博会場へのバスターミナルが造られた